

## 国内経済情勢

### 概 観

景気は引き続き回復基調にあるがその足どりは鈍っており、9月の生産、出荷は前月に続いて減少した。

商品市況は10月も軟調地合いを続け、卸売物価の騰勢は鈍化している。他方消費者物価は前月の高騰に続いて10月もかなりの上昇となった。

この間金融面では、企業の資金需要は鎮静基調を続け、銀行貸出金利は引き続き低下傾向にある。

9月の国際収支は、貿易収支の黒字が大幅となったため、資本収支の流出超過にもかかわらず、総合収支の黒字幅は前月を上回った。

#### 生産、出荷は2か月連続の減少

9月の鉱工業生産(季節調整済み、速報)は、前月比-1.0%と2か月連続の減少(前月同-1.7%)となった。業種別にみると金属製品(アルミサッシ等)、輸送機械(トラック等)などは増加したものの、一般機械(原動機、圧延機械、小型電卓等)が大幅に減少したほか、鉄鋼(高炉中間製品等)、電気機械(家電製品等)、紙・パルプ、繊維等がいずれも減少となった。

鉱工業出荷(季節調整済み、速報)も、前月比-1.6%と前月(同-0.5%)に続いて減少した。財別にみると、建設資材(アルミサッシ、板ガラス等)が増加を続け、非耐久消費財(灯油等)が3か月ぶりに微増、また前月減少した生産財も横ばい

にとどまったが、耐久消費財(家電製品、小型乗用車等)が前月に続き大幅減少となったほか、一般資本財、資本財輸送機械(鉄道車輛、船舶等)がいずれもかなりの減少を示した。

この間生産者製品在庫(季節調整済み、速報)は、乗用車、一般機械(土木建設機械、農業機械等)、家電製品等を中心に、前月比+1.0%と前月横ばいのあと小幅ながら積上りをみた。また生産者製品在庫率(45年=100)も123.2と上昇(前月120.0)した。

9月の設備投資関連指標の動きをみると、一般資本財出荷(季節調整済み、速報)は電動機等が増加したものの、大型受注機種(圧延機械、原動機等)、農業機械、官公需関連の通信機械などの減少から前月比-2.1%と3か月ぶりに減少した。一方機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み)は、電力向けの大口受注のほか鉄鋼向け等も増加したため、前月比+60.0%と前2か月減少のあと大幅の増加を示し、7~9月でも前期比+2.7%の小幅増加となった。また建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、速報)も、前月減少(前月比-7.7%)のあと前月比+10.7%とかなりの増加となった。

8月の新設住宅着工戸数(季節調整済み)は、住宅金融公庫上期分の着工が峠を越えたこともあって前月比-7.5%と減少した(前年同月比+7.6%)。

9月の全国百貨店売上高(季節調整済み、速報)は、前2か月増加のあと、台風の影響もあって前月比-1.6%と減少した(前月同+2.0%)。また10

月の乗用車の売行きは前月に続いて不ぞいで、乗用車新車登録台数(季節調整済み)は前月比 -8.9%と減少した(前月同 -7.4%)。

9月の労働関係指標の動きをみると、求人の減少から有効求人倍率は0.65倍(前月0.67倍)と再びわずかながら低下し、新規求人倍率も8か月ぶりに1倍を割込んだ。もっとも常用雇用は前月下げ止りのあと、非製造業を主体にわずかながら増加した。

### 卸売物価の騰勢は鈍化

10月の商品市況をみると、鉄鋼は弱含みに推移したあと月末にかけて小戻したが、内外需の不ぞいえや海外市況安を背景に、非鉄、合繊、綿糸、石油製品など多くの品目は軟化を示し、総じて前月同様地合い軟調のうちに推移した。

卸売物価は、9月に前月比 +0.4%となったあと、10月に入ってから上・中旬とも前旬比 +0.1%の小幅上昇にとどまった。品目別にみると、紙パルプ、各種機械等がやや値上りしたものの、非鉄等が下落し、また多くの品目で上昇頭打ちの傾向がうかがわれるなど、このところ卸売物価の騰勢は鈍化している(中旬の前年同月比 +6.5%)。

一方、10月の消費者物価(東京、速報)は、衣料品、季節商品が値上りを続けたほか、ガス料金の引上げもあって前月比 +1.1%と前月高騰(同 +2.8%)のあと引続きかなりの上昇を示した(前年同月比 +8.5%)。

### 貸出金利の低下続く

10月の金融市場をみると、銀行券は月末にかけて増発傾向が強まり月中495億円の発行超(前年還収超1,459億円)となった。一方財政資金は、食糧支払減、税収増等から一般財政の払超幅が前年をかなり下回ったうえ、特例公債法の成立に伴い国

債発行が多額に上ったため、全体では前年と様変りに5,366億円の揚超(前年払超4,847億円)となった。この結果その他勘定を合わせると月中6,501億円の資金不足(前年資金余剰5,568億円)となったが、日本銀行は主として手形の買オペレーションによりこれを調整した。

この間コール・手形売買市場では、月初の銀行券還流に伴う需給緩和からコール・レートは4日に0.25%低下、その後もおおむね平穩裡に推移した。なお月末接近とともに年末繁忙期に備えた年越し期日手形の売買取引が始まり、そのレートは年内期日ものより0.5%高となった(月末のコール無条件もの出し手レート6.75%、手形買い手レート年越し期日もの8.0%)。

10月の銀行券平均発行残高は、前年同月比 +12.1%と前月(同 +11.0%)に続いてやや伸び率を高めた。一方9月のマネーサプライ(M<sub>2</sub>、平残)は、前年同月比 +15.0%とこのところ落ち着いた動きを続けている(前月同 +15.2%)。

9月の全国銀行貸出は月中10,991億円増と、8月末休日のため小幅増加にとどまった前年(7,706億円増)を上回ったが、貸出残高の前年比伸び率は +11.4%と大勢横ばいに推移した(7月同 +11.4%、8月同 +11.1%)。企業の資金需要をみると、大企業では商社等の輸入関連資金が増加傾向を示しているほかは依然借入抑制の姿勢をみせているところが多く、また中堅・中小企業でも引続き一部の業種からの増産・増販資金の需要はあるものの総じて動意に乏しいため、全体として鎮静基調を続けている。これに対し金融機関の融資態度は引続き弾力的であり、企業の資金繰りは全般に余裕含みに推移している。

9月の全国銀行貸出約定平均金利は、月中

-0.011%と低下を続け、低下幅は期末による手形書替の増加もあって前月(-0.009%)をやや上回った(昨年4月以降の通算低下幅は1.201%)。

10月の公社債市況は、月前半には都市銀行等の売却が幾分増加した反面、農林系統金融機関等の買い手筋が模様ながめの態度を続けたため引続き弱含みに推移したが、その後は一部に値ごろ買いの動きもみられ保合い商状となった。一方株式市況は、海外株価の軟化や信用取引買残の高水準などがいや気されて中旬にかけて急落した。

#### 輸出入とも大幅増加

9月の国際収支は、貿易収支が季節的要因に加え船舶輸出の集中もあって大幅黒字を計上したため、長期資本収支が対外直接投資の増加などから流出超幅を拡大し、短期資本収支も小幅ながら流出超過となったものの、総合収支では428百万ドルの黒字(前月同107百万ドル)となった。

9月の輸出(通関ベース、季節調整済み)は、前月比+11.3%と2ヵ月減少のあと大幅な増加となった。これは船舶の引渡し集中によるところが大

きいが、そのほか弱電製品、重電機器、自動車、鉄鋼なども期末月にあたることもあって増加した。

地域別にみると、アフリカ、中南米、中近東向けが引続きかなりの増加となったほか、米国、EC向けも前月減少のあと増加した。

他方輸入(通関ベース、季節調整済み)も、前月比+6.1%と増加を続けた。これは、原油、木材が引続き増加したほか、鉄鋼原料、砂糖、小麦等の入着がかなりの増加となったためである。

10月のインターバンク米ドル直物相場は、月初には前月末の地合いを受けて287円台の小動きを続けたあと、月央にかけて輸入決済の高水準や大口送金に加え、海外からの円需要の減退もあって、市場の需給がひっ迫したため急騰し、その後も引続き堅調裡に推移した(月末294円25銭)。

10月の外貨準備高は月中88百万ドル増加し、月末残高は16,577百万ドルとなった。

(昭和51年11月9日)